

# 中小企業動向 トピックス

## 中小企業の景況は、新型コロナウイルス感染症の影響により 厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる

「全国中小企業動向調査・中小企業編」結果概要  
〔2021年7-9月期実績、10-12月期および2022年1-3月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2021年9月中旬に「全国中小企業動向調査・中小企業編」を実施しました（調査対象13,144社、有効回答企業数6,703社、回答率51.0%）。

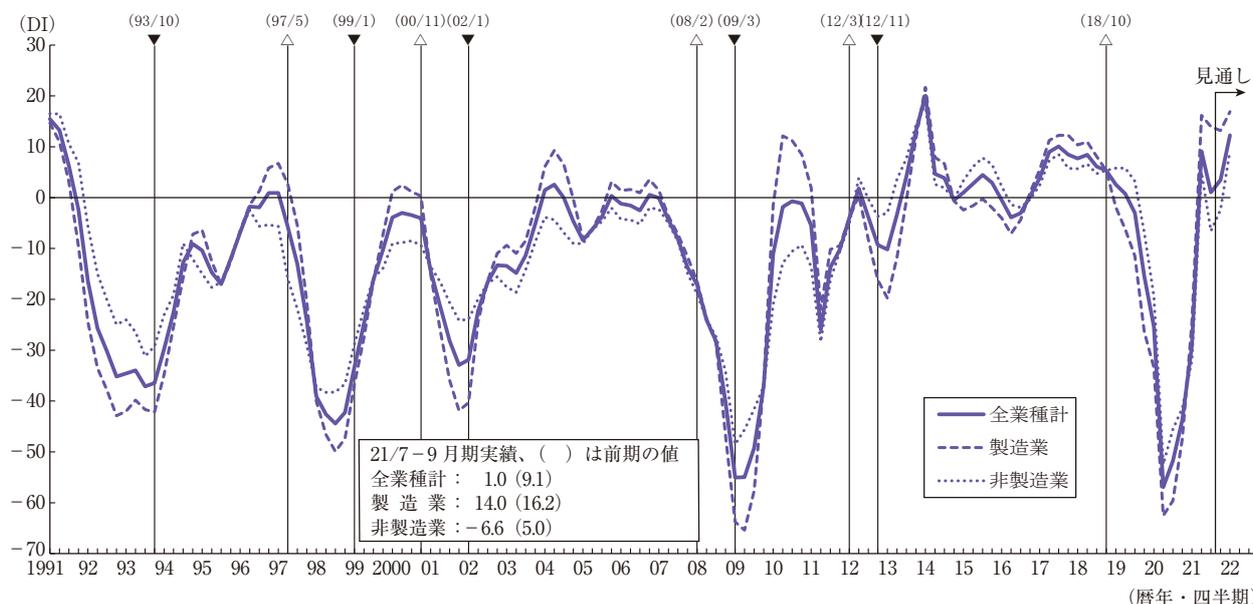
今期の業況判断DIは、前期から8.1ポイント低下し、1.0となりました。中小企業の景況は、依然として厳しい状況にありますが、一部に持ち直しの動きがみられます。

### 業況判断DIは2期連続でプラス圏

今期（2021年7-9月期）の業況判断DIは、前期（2021年4-6月期）から8.1ポイント低下し、1.0となりました（図-1）。低下はしたものの、2021年4-6月期から2期連続でプラス圏を維持しています。業種別にみると、製造業は前期から2.2ポイント低下し、14.0となりました。非製造業も前期から11.6ポイント低下し、-6.6となりました。両者の低下幅の違いにより、その差は広がっています。

来期（2021年10-12月期）の見通しは3.5、来々期（2022年1-3月期）は12.3と、それぞれ上昇を見込んでいます。

図-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



資料：日本政策金融公庫総合研究所「全国中小企業動向調査・中小企業編」（以下同じ）

（注）▲は景気の山、▼は景気の谷を示す（以下同じ）。

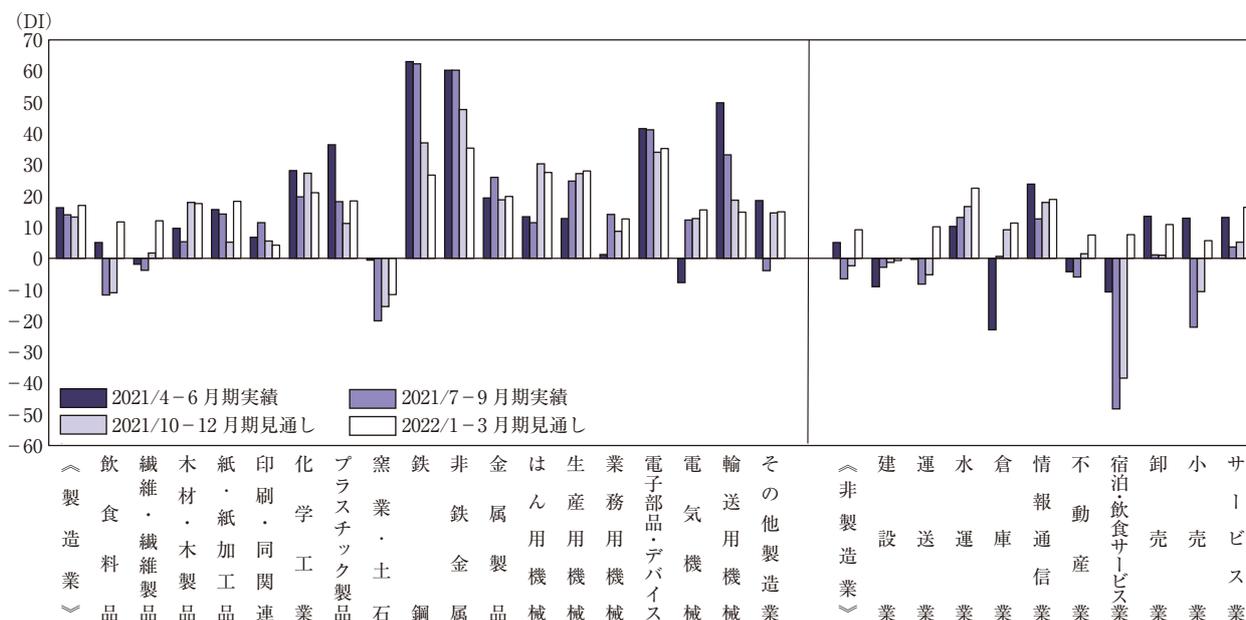
## 非製造業の業種に弱さ

さらに細かい業種別に業況判断 DI をみていきましょう。今期の DI は、製造業は全 18 業種中 5 業種で、非製造業は全 10 業種中 3 業種において、前期と比べて上昇しました（図-2）。

経済活動の再開に伴い、原材料の需要が高まっているため、鉄鋼や非鉄金属など素材関係の業種が引き続き好調です。足元の半導体不足の影響を受け、電子部品・デバイスも高水準となっています。

一方、非製造業は多くの業種が低下しました。最も低下幅が大きいのは宿泊・飲食サービス業で、前期から 37.4 ポイント低下しました。次いで小売業が 35.0 ポイント低下しています。調査期間中に感染が急拡大したことなどが影響し、消費が抑えられたためと考えられます。この 2 業種は来期の見通しもマイナス圏で、回復は来年以降に持ち越しとなりそうです。

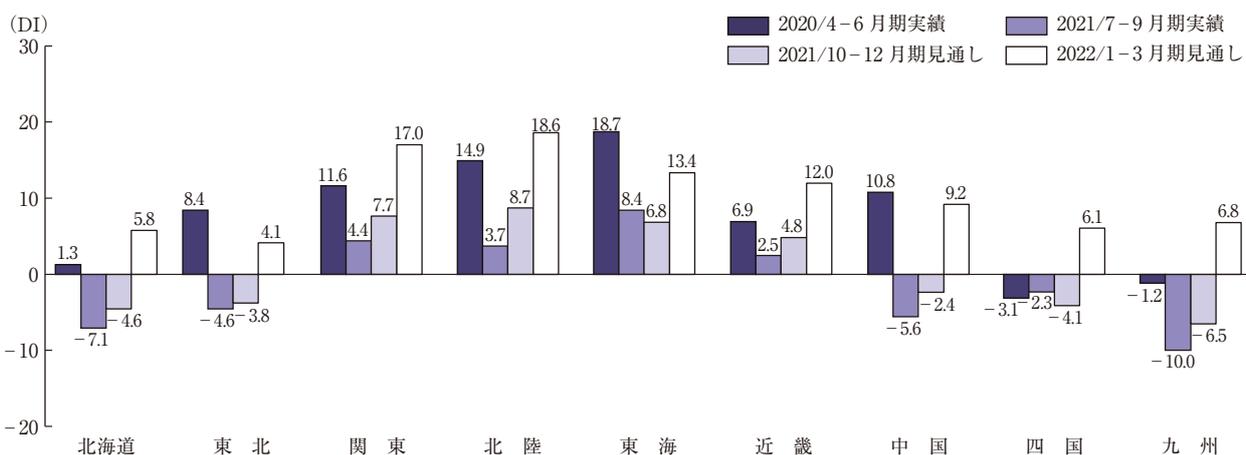
図-2 業種別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



## ほとんどの地域で業況判断 DI は低下

業況判断 DI を地域別にみると、今期は前期に比べて、四国以外の全ての地域で低下しました（図-3）。来期は、北海道や東北、関東、北陸、近畿、中国、九州の 7 地域で上昇する見通しです。

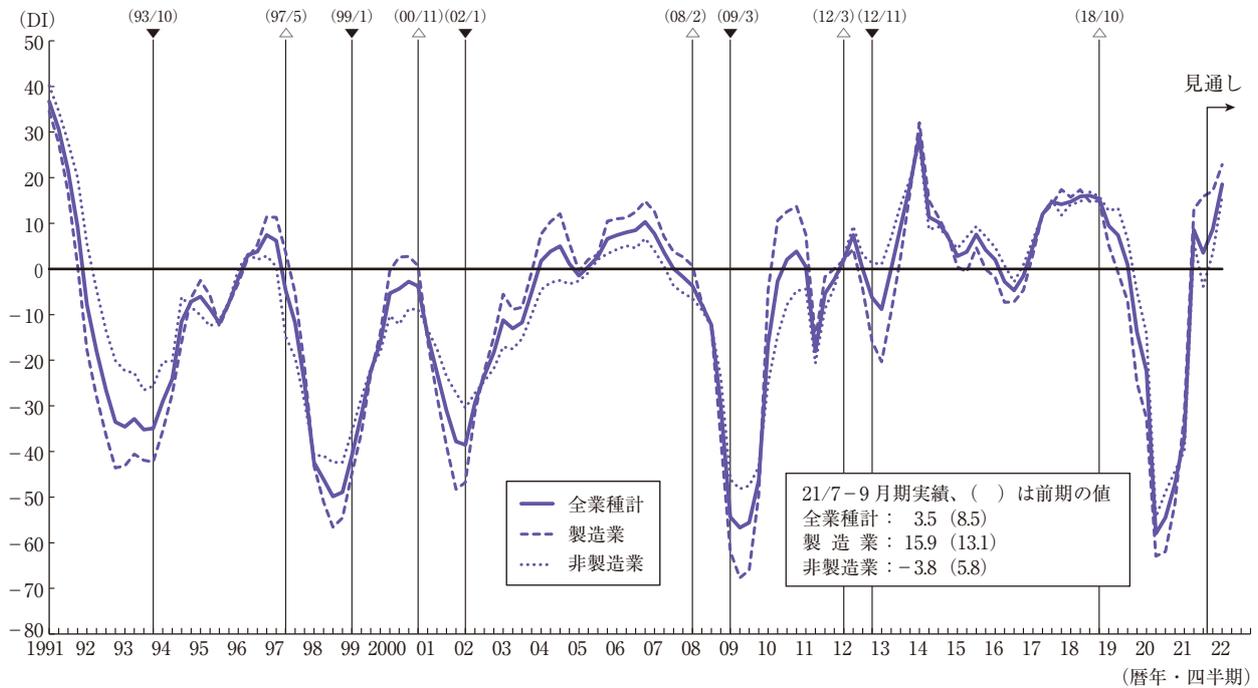
図-3 地域別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



## 売上DIは5期ぶりに低下

今期の売上DIは、前期から5.0ポイント低下し、3.5となりました（図-4）。5期ぶりの低下です。来期は8.7に上昇し、来々期は18.6とさらに上昇する見通しです。

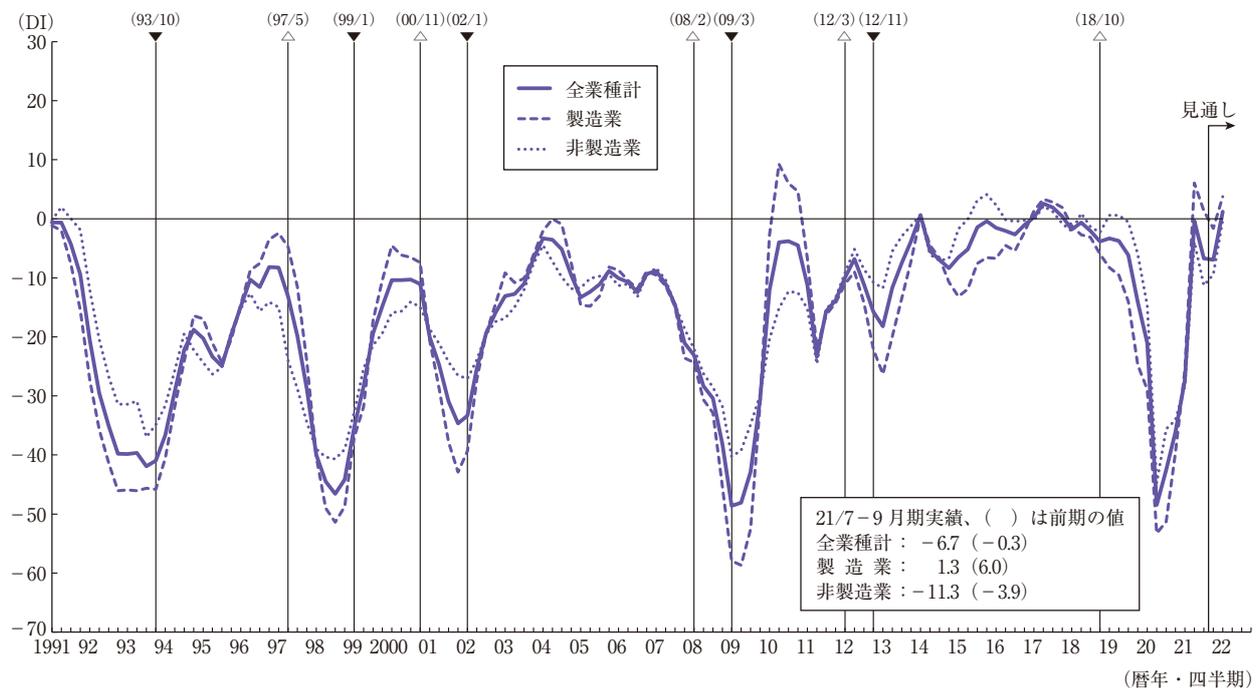
図-4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



## 純益率DIは5期ぶりに低下

今期の純益率DIは、前期からマイナス幅が6.4ポイント拡大し、-6.7となりました（図-5）。5期ぶりの低下です。来期は-6.9とマイナス幅が拡大し、来々期は1.2に上昇する見通しです。

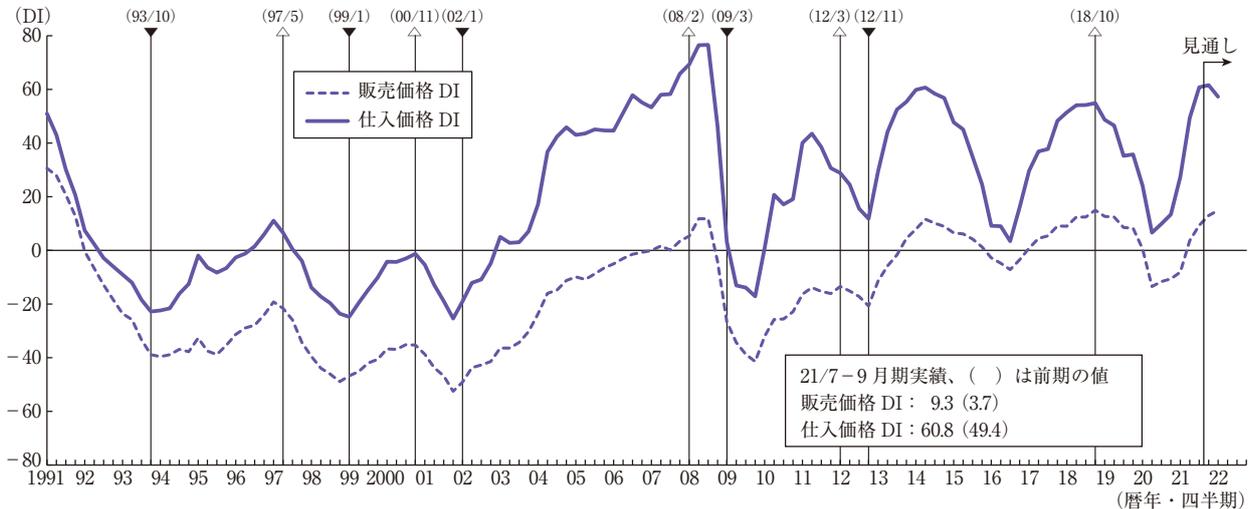
図-5 純益率DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



## 販売価格 DI、仕入価格 DI ともに上昇が続く

販売価格 DI は前期から 5.6 ポイント上昇し、9.3 となりました（図-6）。仕入価格 DI は前期から 11.4 ポイント上昇し、60.8 となりました。原材料価格の高騰を受け、仕入価格 DI と販売価格 DI は引き続き上昇しています。

図-6 販売価格 DI と仕入価格 DI の推移（いずれも前年同期比で「上昇」－「低下」企業割合、原数値）

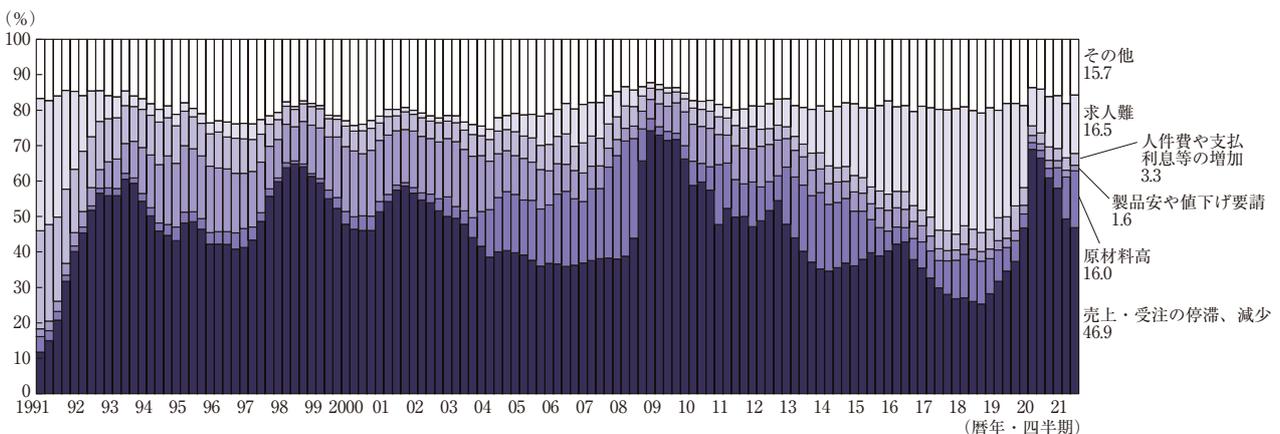


## 問題点は「原材料高」の割合が上昇

当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」と回答した割合が 46.9% と最も高く、次いで「求人難」（16.5%）、「原材料高」（16.0%）と続きます（図-7）。「売上・受注の停滞、減少」は前期に比べ 2.4 ポイント低下、「原材料高」は 4.2 ポイント上昇しました。

今回の調査では、新型コロナウイルス感染症の第五波と重なり、非製造業を中心に業況が悪化しました。しかし、製造業が下支えし、全業種計の DI はプラス圏を維持しています。ワクチン接種が進み、10 月に全国で緊急事態宣言が解除されるなど、好材料もあります。原材料価格の高騰や半導体不足などの懸念材料もあり、予断を許さない状況ですが、中小企業の景況は、持ち直しの動きが見られます。（小針 誠）

図-7 当面の経営上の問題点の推移



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <https://www.jfc.go.jp/> ～